

次期長野市総合計画
(2027年度～2036年度)

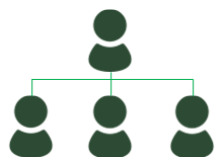
推進体制(素案)について

令和8年7月
企画課

市民の実感を計画推進の軸に！

本市の将来像実現に向け、「住みたい」「住み続けたい」と思われるまちを目指すため、市民の実感を計画推進の軸としていきます。市民をはじめとした外部の意見を聴きながら達成状況を点検・評価するほか、社会環境の変化も踏まえた必要な見直しや改善を行うため、進捗管理の方法と、これを推進していく体制を整えます。また、計画に関する情報発信を積極的に行い、多様な主体の計画に対する理解を深め、連携して計画を推進していきます。

01



進捗管理と推進体制

本計画を推進するため、**PDCAサイクル**により進捗を管理します。進捗状況の確認(Check)、効果的な推進の手法の検討、推進に向けた予算への反映(Action)などの議論を任務とする**総合計画推進本部**において、効率的な推進を図ります。

02



進捗状況の把握・分析

本計画に定める指標に**市民の実感を測るアンケート指標**を設定します。また、進捗状況については、**市民アンケートを毎年度実施**し、把握します。本計画に基づく各分野の**個別計画の進捗状況を補完**しながら、評価・検証を行います。

03



外部評価と結果公表

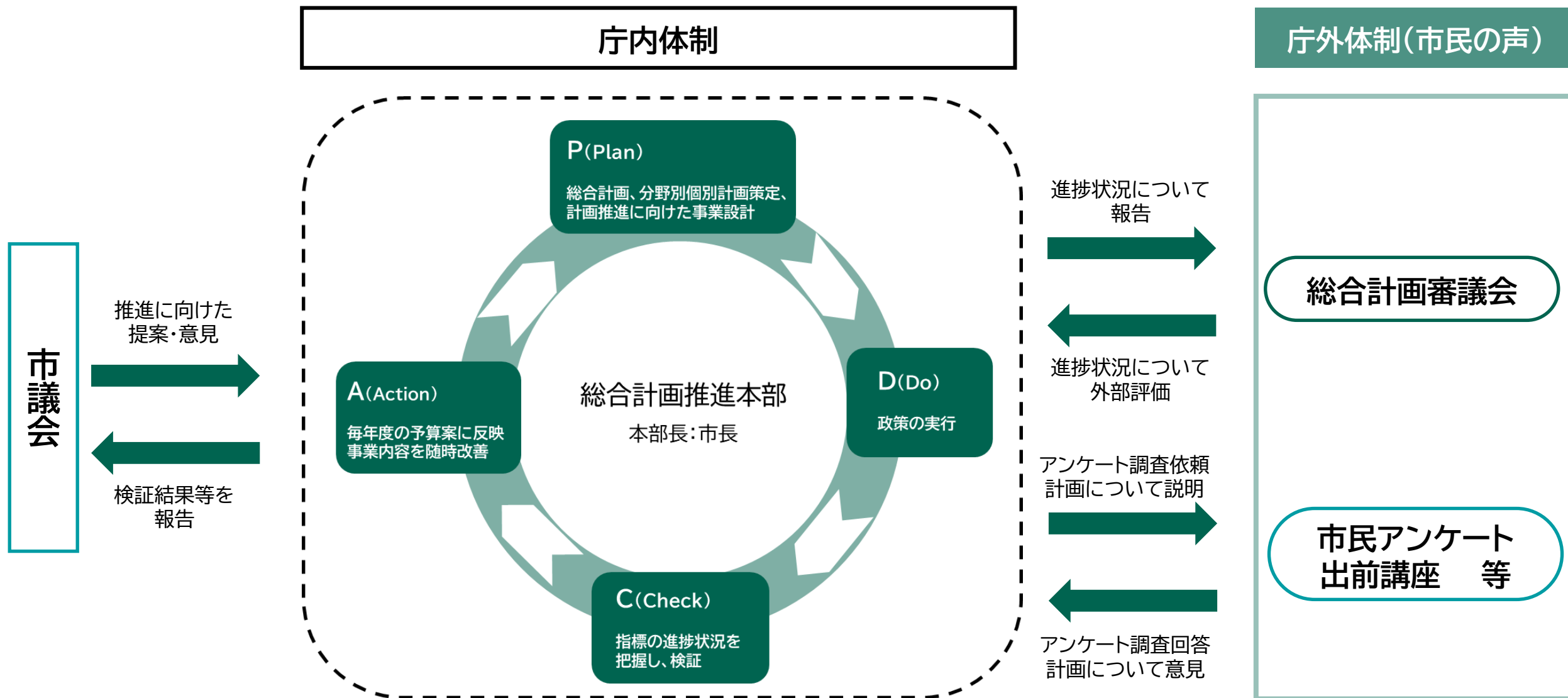
進捗状況を、外部の有識者等で構成される**総合計画審議会**で**評価・検証**を行い、その結果を**毎年度公表**します。



外部評価・結果公表の効果

- 客観性・透明性の確保
- 外部の専門的知見の反映
- 市民への説明責任の履行

推進体制イメージ



基本方針

市民の主観的指標を評価の軸に！

「住みたい」「住み続けたい」と思われるまちを目指すため、
市民の実感を測る主観指標を中心に据えて計画の進捗を図る。

総合計画

総合指標(インパクト)/分野別指標(アウトカム)

市民の主観指標(状態・意識)

- 市民の幸福度
- 市民の定住意向
- 充実度、満足度



指標設定の
役割分担

個別計画

成果指標(アウトカム)/活動指標(アウトプット)

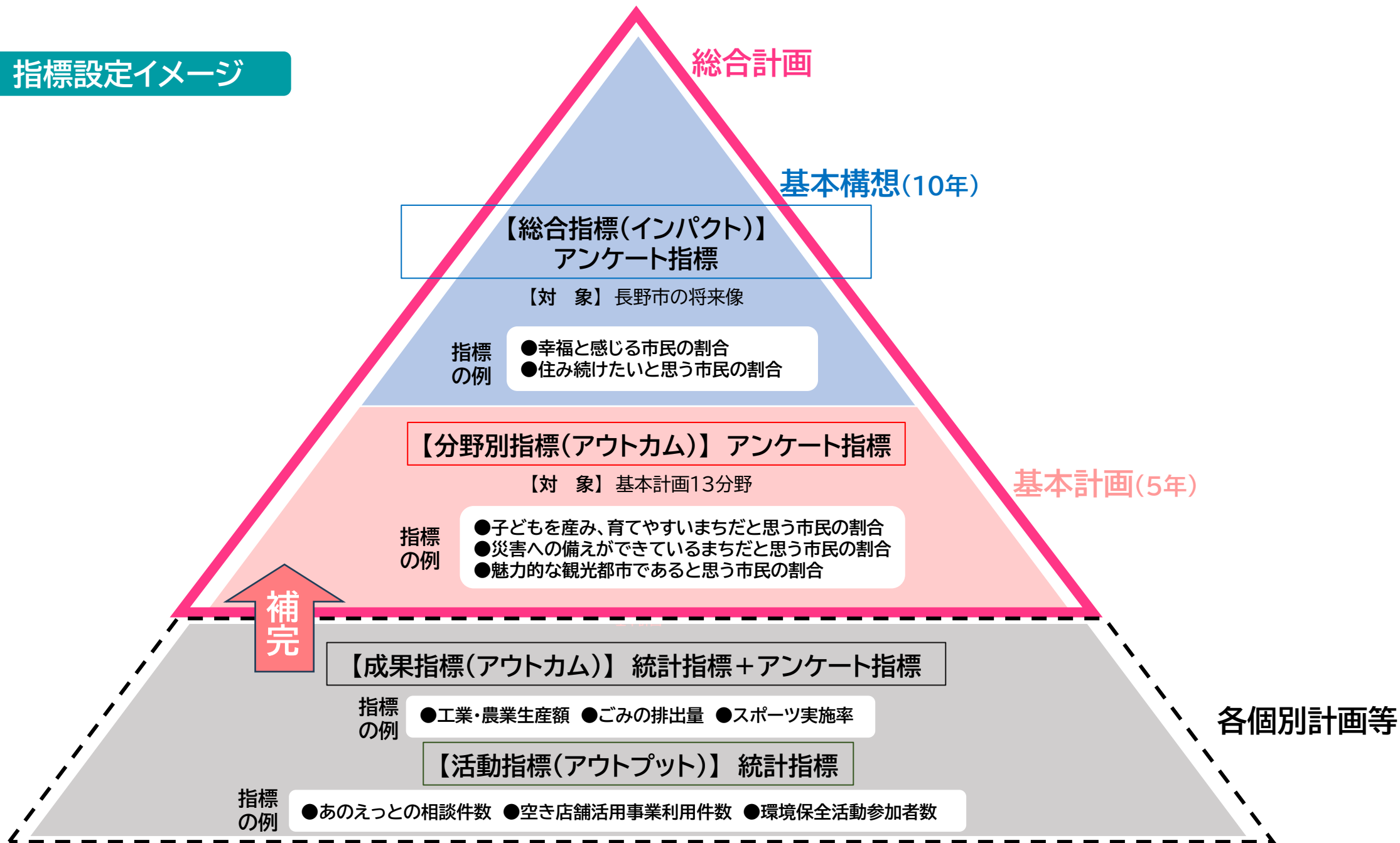
具体的取組の客観指標(成果指標/活動量)

- 工業・農業生産額、観光消費額(成果指標)
- 温室効果ガス排出量、ごみの総排出量(成果指標)
- 講座、イベントの参加者数(活動量)
- 施設、道路等の整備量(活動量)

※必要に応じ、主観指標の設定も行う

総合計画と個別計画を整理した、インパクト、アウトカム、アウトプットのKPIを設定することで、**効果的な政策評価**を行う。

指標設定イメージ



指標(案)一覧

		設定区分		将来像・目指す姿	設問	指標
総合指標	基本構想	長野市の将来像		幸せを未来へ紡ぐ『ながの』 ～住みたいまちはみんなで創る～	No.1	幸せと感じている（※11段階評定）
					No.2	今後も長野市に住み続けたいと感じている
分野別指標	基本計画	ひと部門	人権・福祉分野	誰もが多様性を理解し、支えあい、生きがいを持って暮らしている	No.3	誰もがお互いを尊重し合えるまちである
			健康・医療分野	誰もが身体的にも精神的にも健やかと感じ、安心して暮らしている	No.4	高齢者・障害のある方が暮らしやすいまちである
			子ども・若者分野	子ども・若者が健やかに育ち、活躍している	No.5	身体的に健やかである
			教育・学び分野	誰もが様々なことを学び、豊かな心が育まれている	No.6	精神的に健やかである
		まち部門	防災・安全分野	災害や犯罪への備えが整い誰もが安心して暮らしている	No.7	子ども・若者が活躍しているまちである
			コミュニティ分野	地域のつながりの中で誰もがいきいきと暮らしている	No.8	子どもを産み・育てやすいまちである
			環境分野	人と自然が共生し、豊かな環境の中で暮らしている	No.9	子どもの教育環境が充実しているまちである
			都市整備分野	誰もが快適に暮らし活動できるまちとなっている	No.10	誰もが学びたいことを学べるまちである
		産業部門	商工業分野	新たな価値や成長を育み、経済が循環している	No.11	災害への備えができているまちである
			文化芸術分野	文化芸術に親しみ、創造し継承されている	No.12	防犯・交通安全対策が整っているまちである
			観光分野	魅力的な観光都市としてにぎわっている	No.13	地域で人とのつながりを感じられるまちである
			スポーツ分野	スポーツを通してまちに活力が生まれている	No.14	自然や緑に親しめるまちである
			農林業分野	地域の特性を活かした農林業が盛んである	No.15	快適に暮らせるまちである
					No.16	目的地へ移動しやすいまちである
					No.17	中心市街地に活気がある
					No.18	文化・芸術・芸能が盛んで誇らしいまちである
					No.19	魅力的な観光都市である
					No.20	スポーツが盛んなまちである
					No.21	おいしい農産物が生産されるまちである
					No.22	森林が保全され、森や木に親しめるまちである

基本構想に掲げる「長野市の将来像」、基本計画の「目指す姿」の進捗度合に対する市民意識を「アンケート指標」として設定し、毎年度、進捗状況を確認します。

実施手法	内 容
調査対象	長野市在住15歳以上5,000人を年代を考慮した不均等層化抽出(※1)
調査方法	紙媒体調査 インターネット調査 の併用
調査項目	属性(※2)を含む30問程度 (対象者のうち500人(※3)に対して、理由の記載も求める)
選択肢の設定	5段階評価(※4) そう思う ややそう思う あまりそう思わない そう思わない わからない ただし、幸福度については11段階評価

※1 あらかじめ回答数が少ない傾向にある年代を、多めにサンプルとして抽出し、回答数を確保する手法

※2 ①性別、②年齢、③居住地(郵便番号)、④職業、⑤家族構成を予定

※3 $500人(対象者) \times 40\%(想定回収率) \times 50\%(理由の回答率) = 100件(理由の回答件数)$
傾向の把握であれば、100件程度の把握でも妥当

※4 「そう思う」と「ややそう思う」を足した回答数を肯定評価として、計画中の現状値とする。